

令和 7 年度 磐田市こども・若者育成支援大会

# 地域と学校でつくる こども・若者の未来

## 日時・会場

令和 8 年 2 月 9 日 | 13:30 ~ 15:30 (開場 13:00)

ワークピア磐田 (磐田市見付 2989-3)

## 内容

### ■ 講演会

地域と学校の連携・協働 -コミュニティ・スクールの可能性-

これからのこどもたちの居場所のありかたとは？

こども・若者の学びや体験活動に携わる方々へ活動のヒントをお届けします。

### 講師



市川 重彦 氏 (社会教育士、川口市立鳩ヶ谷中学校長)

大学卒業後、小学校教員を務めた後、社会教育行政に 12 年間携わる。校長を務めた所沢市立松井小学校では、学校運営協議会制度を導入し、コミュニティ・スクールとして、“地域とともにある学校づくり”を目指し、令和 6 年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る文部科学大臣表彰を受賞。令和 3 年に“社会教育士”の称号を取得し、埼玉県を中心に「社会教育士のネットワークづくり」に取り組んでいる。

## 申込み

右の二次元コードまたは、以下の URL よりお申し込みください。

<https://logoform.jp/form/dWNN/1345347>

※申し込み期間：～2/5 (木) まで



### 主催・問い合わせ

磐田市役所 自治デザイン課

Tel : 0538-37-2118

Mail : chiiki-ohen@city.iwata.lg.jp



## 「岩手発 ブラックホール行き 銀河鉄道の旅」

2019年4月、国際プロジェクトのイベント・ホライズン・テレスコープ (Event Horizon Telescope) は、楕円銀河 M87 の中心にあるブラックホールの写真を公開して世界中で大きなニュースになりました。また、2022年5月には、天の川銀河の中心にあるブラックホールの写真も公表されました。

本講演では、同プロジェクトで日本の代表を務める講師が、岩手・水沢の緯度観測所の誕生からブラックホールの観測に至るまで、岩手の地で行われてきた天文学研究について解説します。また、天文学と社会教育の関わりについても述べたいと思います。

講師

国立天文台水沢 VLBI 観測所

所長(教授) 本間 希樹 氏

アメリカ合衆国テキサス州生まれ、神奈川県育ち。1994年東京大学理学部天文学科卒、1999年同大学院博士課程修了。同年国立天文台COE研究員。その後、助教、准教授を経て2015年より現在まで、国立天文台教授、水沢 VLBI 観測所所長を兼務。また現在、総合研究大学院大学および東京大学大学院の併任教授。専門は電波天文学で、超長基線電波干渉計 (VLBI) を用いて銀河系構造やブラックホールの研究を行っている。著書に『巨大ブラックホールの謎』(講談社ブルーバックス)、『国立天文台教授が教える ブラックホールってすごいやつ』(扶桑社) など。2017年よりNHKラジオ『子ども科学電話相談』の回答者も務める。



## 【受賞等】

- 自然科学研究機構 若手研究者賞 (2014年、個人受賞)
  - 日本天文学会 欧文研究報告論文賞 (2015年、筆頭著者として受賞)
  - 文部科学大臣表彰 科学技術賞研究部門 (2017年、3名で共同受賞、筆頭者)
  - Fundamental Physics Prize (FPP) Foundation, Breakthrough Prize in Fundamental Physics (2019年11月、EHTプロジェクトメンバーとして共同受賞)
  - 日本天文学会 林忠四郎賞 (2021年3月、個人受賞)
- 他に共同受賞多数

## 【著書等】

- 『巨大ブラックホールの謎』 講談社ブルーバックス (2017年4月)
- 『国立天文台教授が教える ブラックホールってすごいやつ』 扶桑社 (2019年12月)
- 『宇宙の奇跡を科学する』 扶桑社新書 (2021年3月)
- 『国立天文台教授がおどろいた ヤバい科学者図鑑』 扶桑社 (2022年7月)
- 『深すぎてヤバい宇宙の図鑑』 講談社 (2023年9月)

## シンポジウム

15:30～16:50

# 共に学び支えあう社会教育の実践 ～ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割とは～

現代社会において、社会やライフスタイルの変化等により、人と人との「つながり」の希薄化、困難な立場にある人々などに関する課題が顕在化・深刻化しており、社会的包摂とその実現を支える地域コミュニティが一層重要になっています。

行政、学校、民間団体、それぞれの立場から実践例を踏まえた提言を行い、ウェルビーイングの実現に向けた社会教育の役割について、参加者とともに考えていきたいと思えます。

### コーディネーター

武蔵野大学ウェルビーイング学部教授 **前野 隆司** 氏



1984年東京工業大学（現東京科学大学）卒業、1986年同大学修士課程修了。キヤノン株式会社、カリフォルニア大学バークレー校訪問研究員、慶應義塾大学教授、ハーバード大学訪問教授等を経て、武蔵野大学ウェルビーイング学部長、慶應義塾大学名誉教授。博士（工学）。著書に、『ディストピア禍の新・幸福論』（2022年）、『ウェルビーイング』（2022年）、『幸せな職場の経営学』（2019年）、『幸せのメカニズム』（2013年）、『脳はなぜ「心」を作ったのか』（2004年）など多数。日本機械学会賞（論文）（1999年）、日本ロボット学会論文賞（2003年）、日本バーチャルリアリティ学会論文賞（2007年）などを受賞。専門は、幸福学、イノベーション教育など。

### シンポジスト

国立市教育委員会教育部公民館館長補佐、生涯学習課課長補佐兼任 **井口 啓太郎** 氏



国立市教育委員会教育部公民館館長補佐（生涯学習課課長補佐兼任）社会教育主事／文部科学省「障害者の生涯学習推進アドバイザー」。東京都町田市出身。社会教育の専門職として約20年間、東京都の世田谷区、足立区、国立市で教育行政・施設に携わる。2009年より障害や困難の有無にかかわらず若者が共に学びあう実践「コーヒーハウス」に関わる。2018年から文部科学省で障害者の生涯学習政策を担当。2022年より現職に帰任。また現在、東洋大学大学院文学研究科教育学専攻博士後期課程に在籍し、障害者の生涯学習をテーマにした研究を行う。関連する近著に、佐藤一子・田中雅文編『共生への学びの構築－市民の協働にねがず教育創造』（東京大学出版会、2025年）所収の「障害をもつ人々の社会参加を支える学び」などがある。

### シンポジスト

埼玉県川口市立新郷小学校教頭 **岡田 直人** 氏



埼玉県川口市在勤・在住。埼玉県公立学校教員として、蕨市、川口市の小学校で勤務した後、川口市教育委員会文化財課、生涯学習課社会教育主事、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員、埼玉県教育局生涯学習推進課社会教育主事兼指導主事を歴任し、令和6年4月から現職。11年間の社会教育行政の中では、市内の文化財を用いた歴史教室、地域学校協働活動、PTA、社会教育主事の養成・育成、外国人親子への支援と地域住民とのつながりづくりの業務の他、「社会教育主事の専門性を高める現代的課題を扱った研修プログラムの開発に関する調査研究」「社会教育主事講習の充実に資する学習コンテンツ等の開発に関する調査研究」に携わった。また、社会教育士の活動の一環として、埼玉県社会教育主事等研究会副会長、川口市PTA連合会副会長、中学校PTA副会長、小学校地域学校協働本部（SRC）相談役、地元町会総務部長として活動している。

### シンポジスト

認定特定非営利活動法人インクルいわて理事長 **山屋 理恵** 氏



盛岡市出身。福島大学大学院地域政策科学研究科修了。2011年「家族のカタチにかかわらず、誰もが生き生きと暮らしていける包摂された社会（Inclusive Society）の実現」をビジョンに団体を設立。被災者、ひとり親家庭、こども、女性、LGBT、生活困窮など社会的排除リスクの高い人々へ「当事者支援」と「地域づくり」を両輪に、多分野多職種のスタッフによる包括的な支援づくり、ネットワークの構築、誰もとりこぼさない社会の実現を目指している。発災直後から被災者支援に携わる傍ら、「ひとり親家庭支援プログラム」を構築し、親・子の居場所づくり、中間就労モデルづくり、サポーター養成講座を被災3県で開催するなどひとり親家庭支援を実施。他にも、岩手県男女共同参画センターを受託し、行政として全国初のLGBT相談の実施や岩手県初の子ども食堂に取組み、県内外のネットワークを構築している。子どもの居場所ネットワークいわて共同代表、「子供と家族・若者応援団表彰」子育て・家族支援部門内閣総理大臣表彰 他。

中華獅子舞

学校法人横濱中華學院



横濱中華學院は1897年に創立され、128年の歴史を誇る伝統ある華僑学校です。教育活動の一環として、中華伝統芸能である獅子舞や龍舞を授業に取り入れています。中華文化において獅子は「驅邪降福」の神の化身であり、吉祥の象徴とされています。横濱中華街でも関帝誕や春節祭などの祭事に欠かせない存在として盛んに舞われ、人々に親しまれてきました。

近年では、本校卒業生で組織される校友会が、台湾・マレーシア・マカオなどで開かれる世界大会に日本代表として出場し、優秀な成績を取めるなど、その活躍は国内にとどまらず広がっています。

今日は本校中高生を中心とした獅子舞を、第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会の成功と皆さまのご健勝を祈念して披露いたします。勇壮で愛嬌ある舞をどうぞお楽しみください。なお「獅子に嘯まれると福が来る」とも伝えられ、皆さまにも幸運が訪れますよう祈っております。

資料3

演題

「誰もが自分らしく生きることができる社会をめざして」

講師

認定NPO法人スローレーベル 芸術監督  
栗栖 良依 氏



東京造形大学でアートマネジメントを学び、イタリアのドムスアカデミーでビジネスデザインの修士号を取得。25年以上にわたり、異なる分野の人やコミュニティをつなげ、対話や協働のプロセスで社会変革を試みる市民参加型のアートプロジェクトを手がける。2010年、骨肉腫により障害福祉の世界と出会う。翌年、SLOW LABELを創設。ヨコハマ・パトリエンナーレ(2014-2020)総合ディレクターとして、舞台やイベント制作におけるアクセシビリティの仕組みを開発。東京2020パラリンピック開閉会式で企画・演出振付・キャスティング・リハーサル運営・コメンタリーガイドまでをDE&Iの観点から総合的に監修。第65回横濱文化賞「文化・芸術奨励賞」受賞、TBS「ひろびろ」木曜コメンテーター

共生社会の実現には、障がいのある人もない人も互いにその人らしさを認め合い、かつ誰もが自分らしく生きていくことができる社会を築いていくことが必要であると考えます。そこで、東京2020パラリンピック開閉会式ステージアドバイザーを務められた栗栖良依氏の視点から、今日の社会の現状や課題についてお話いただきます。

## テーマ

すべてのひとが学び続けられる  
社会をつくるために  
社会教育ができること

## シンポジスト

青木 信二 氏 (厚木市立森の里公民館 前地区館長)  
阪本 陽子 氏 (東京都台東区教育委員会 社会教育主事)  
渡邊 健一 氏 (相模原市 社会教育委員)

## コーディネーター

伊藤 真木子 氏 (青山学院大学 教授)

すべてのひとが学び続けられる社会とは？ 学び続けることが難しい状況にあるひとは？  
社会教育の実践的な課題とは？ 社会教育委員としてできることはどんなことでしょうか。  
次のような柱に沿って、シンポジストそれぞれの考えや経験を伺いながらテーマに迫ります。

## 1) すべてのひとが学び続けられる社会とは

社会教育の現状をどうとらえるか。取り組まなければならない課題は何か。

## 2) 学び続けることが難しい状況にある人々へのアプローチ

既存のさまざまな学びの場へのアクセスの改善・保障に向けた取組

## 3) 難しい状況にある人々をとりまく周囲の人々へのアプローチ

さまざまな属性・立場・状況にある人々が共に学ぶ場の創出に向けた取組

## 4) 「すべてのひとが学び続けられる社会をつくる」のは誰か

社会教育委員であるからこそできることは何か。

## ■社会教育委員の職務

(社会教育法第17条)

社会教育委員は、社会教育に関し教育委員会に助言するため、次の職務を行う。

- 一 社会教育に関する諸計画を立案すること。
- 二 定時又は臨時に会議を開き、教育委員会の諮問に応じ、これに対して、意見を述べること。
- 三 前二号の職務を行うために必要な研究調査を行うこと。
- 2 社会教育委員は、教育委員会の会議に出席して社会教育に関し意見を述べることができる。
- 3 市町村の社会教育委員は、当該市町村の教育委員会から委嘱を受けた青少年教育に関する特定の事項について、社会教育関係団体、社会教育指導者その他関係者に対し、助言と指導を与えることができる。



青木 信二 氏 厚木市立森の里公民館 前地区館長

森の里地区の自治会や各育成団体に所属して、30年を超える地域活動に従事しながら、厚木市社会教育委員、神奈川県生涯学習審議会委員、神奈川県青少年問題協議会委員、厚木市立森の里公民館地区館長を歴任。その間、地域学校協働活動を実践確立させる。現在、4期目の厚木市立森の里小学校学校運営協議会会長、一級建築士/会社役員



阪本 陽子 氏 東京都台東区教育委員会 社会教育主事

東京都品川区生まれ。大学生時代から地域の子ども育成事業で活動。社会人になって活動を継続するなかで、もっと本格的に社会教育活動を考えたいと一念発起し、退職して大学院へ進学。修了後は、青少年育成団体の研究員などを経て、2004年から台東区教育委員会にて勤務



渡邊 健一 氏 相模原市社会教育委員  
一般社団法人視覚聴覚障害アドボカシー研究所  
マイノリティリサーチセンター研究員

視覚障害者の両親のもと強度弱視で生まれ、30年前から全盲に。4つの大学の通信教育部で学び、法政大学大学院人間社会研究科修士課程を修了。相模原市立図書館協議会委員、同市総合計画審議会委員等を歴任。福祉教育の講師等25年。4歳からピアノを習い、音過敏なほど絶対音感が身に着いた。僅かながら教諭時代にはコーラス部を担当



伊藤 真木子 氏 青山学院大学 教授

専門分野は社会教育学・生涯学習論。国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員、常磐大学准教授等を経て、2019年青山学院大学コミュニティ人間科学部准教授、2023年から現職。主な編著書に『社会教育の連携論』(2015年)、『社会教育と生涯学習の基礎』(2024年)

## 社会教育関係団体に対する補助金交付状況

**社会教育法**

第三章 社会教育関係団体

(社会教育関係団体の定義)

第十条 この法律で「社会教育関係団体」とは、法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいう。

(審議会等への諮問)

第十三条 国又は地方公共団体が社会教育関係団体に対し補助金を交付しようとする場合には、あらかじめ、国にあつては文部科学大臣が審議会等（国家行政組織法（昭和二十三年法律第二十号）第八条に規定する機関をいう。第五十一条第三項において同じ。）で政令で定めるものの、地方公共団体にあつては教育委員会が社会教育委員の会議（社会教育委員が置かれていない場合には、条例で定めるところにより社会教育に係る補助金の交付に関する事項を調査審議する審議会その他の合議制の機関）の意見を聴いて行わなければならない。

令和8年度 磐田市青少年育成事業費補助金の予算について

団体名	R7事業費 (団体)	R7補助額 (市)	R8補助金 事業費 (団体) ※予定	R8補助金 予算額 (市) ※予定	活動内容
いわたゆきまつり 実行委員会	0円	0円	2,400,000 円	1,200,000 円	雪山や雪広場を作り雪遊びの場を提供し、ステージイベントを開催。9月から約半年間、開催に向けて打合せや準備を行う。
ボーイスカウト 磐田地区協議会	1,237,000 円	369,000 円	1,537,000 円	569,000 円	指導者養成のための講習会、研修会、各種訓練の開催、地区諸行事への参加・協力。

**【対象となる補助金】**

自治デザイン課ダイバーシティ推進室が所管する補助金のうち、社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とする団体（社会教育関係団体）に対する補助金を対象としています。

※社会教育関係団体について補足

上記の社会教育法第十条にある定義のほか、『二訂 生涯学習概論』では以下のような解説がされています。

- ・ある団体が社会教育関係団体であるかどうかを判断するための厳密な規程があるわけではない
- ・社会教育関係団体の概念は、社会教育行政が団体を支援する上での原則を示すためのものであり、・・・
- ・財政的な支援が結果的に団体を統制することにつながってしまう危険性を配慮し、団体の自律性が損なわれないよう、一定の条件のもとでのみ、補助金の交付が認められている。